序

城西大学経済学会会長
武　市　春　男

国公私立の大学に，大袈裟に云えば，星の数ほど多いのが経済学部ではなかろうか。その中の一つとして，わが経済学部は呱呱の声を挙げてから，飛ばず鳴かず，知る人ぞ知るといった存在であったことを自覚している。

しかし，年輪を重ねるということは，本当に有難いことで，今日漸く，一人前になったような気がする。これから，さらに一致協力，真摯熱心に精進すれば，立派な学部にまで成長発展できるという自信を得つつある。

実際，われわれの間には，学閥もなければ，年令の格差や地位の上下の距りも感ぜず，和気あいあい裡にことを運び，初め少数であったものが，漸次，仲間も殖えてきて，大人数となって，研究と教育とは愈々熱を帯び，旺盛をきわめている。

そうなると，わが学部の一般教養部門と専門部門とは，いきおい，論陣を時に合同で，折に触れては分けて，張ることが望ましくなってきた。

この意味で，従来刊行してきた「城西経済学会誌」の姉妹篇としての「城西人文研究」を発刊する運びとも相成った次第であるが，もとより他意のある筈がなく，二つは一つ，ただ，その内容においていささか研究の分野が違うので題名を異にするのみである。

本誌を公刊するにあたり，希くは，大方のご批判とご叱正とを賜わりたく，それを資として，本学部の教育を一層向上させたい所存である。